

1 学校教育目標

○自ら学ぶ生徒 ○豊かな心をもつ生徒 ○たくましく生きる生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ol style="list-style-type: none"> 1 明るく、元気な挨拶ができる生徒に溢れた学校 2 ボランティア精神の溢れる学校 3 学校、地域、保護者が一体となり、生徒を育む学校
○児童・生徒像	<ol style="list-style-type: none"> 1 挨拶がしっかりできる生徒 2 社会のルールを守り、社会に奉仕できる生徒 3 自ら判断し、行動できる生徒
○教師像	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒への深い愛情と確かな生徒理解をもつ教師 2 魅力ある授業づくりに努力する教師 3 組織で教育を実践し、生徒・保護者・地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

◎学校の現状

・コロナ禍で計画通りの教育活動ができない中でも、生徒たちは落ち着いた学校生活を送っており、「新しい日常」に対応した範囲の中で、できる活動に積極的に取り組んでいる。後述の成果欄にあるように、生徒アンケートの結果もその状況を如実に表している。3年生の模擬面接で自校の様子・特色を質問すると、ほとんどの生徒が『「みそあじ言」を意識して生活していて、皆があいさつはしっかりできている。』『いじめがなく、明るく元気で仲の良い学校。』と返答している。また、授業にも前向きに取り組んでおり、学力面も徐々に向上してきた。大きな課題である不登校対策については、SCの全員面接やSWPBS(学校規模ポジティブ行動支援)等で未然防止に努めているが、なかなか成果として表れていないのが現状である。

<前年度の成果と課題>

◎成果

◇全般的に生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができ、92%の生徒が「学校または学級は、居心地の良い場所になっている。」という質問に肯定的に答えている。また、ほとんどの生徒が行事を含めた諸活動に前向きに取り組み、90%前後が「成長を実感することができた。」「達成感を得られた」と答えている。諸活動に、生徒と教職員が信頼関係を築きながら取り組んできた大きな成果である。

◇伝統的な合い言葉「みそあじ言」の浸透や「PBSの全校展開」等の取組により、重点事項である「人権意識の涵養と規範意識の醸成」という面でも、「思いやりをもって、友人と接するように心掛けている。」「SNS等を含め、学校のルールを守って生活している。」の肯定的回答が、ともに96%というとても高い結果になっており、これも今年度の大きな成果といえる。

◎課題と解決の方向性

◆確かな学力の定着を目指した取組を行い徐々に成果が出始めているが、各種学力調査の結果を見るとまだまだ改善が必要である。

・85%の生徒が「授業が充実し、学ぶ楽しさを感じた。」と肯定的に答えてくれているが、「主体的・対話的で深い学び」を目指して授業改善を進める。

- ・補充教室(YST)や各種コンテストについては「自身の学力向上に有効だった。」という回答が15%以上減少している。実施方法については、AIドリルの活用を含めて更に検討し、個に応じた支援を推進していく。
- ・家庭学習強化週間の設定やキャンペーンの展開等の工夫をして、家庭学習の質的・量的な改善を図る。
- ◆キャリア教育を柱のひとつとしたが、コロナ禍ということもあり、「将来の夢や希望をもてた。」や「基礎的・汎用的能力」の数値は伸び悩んだ。
- ・教員もキャリア教育についての研修を深めながら「夢デザインシート」も活用して、基礎的・汎用的能力の育成に取り組む。
- ・感染防止に努めながら、できる限り体験的活動を実施していくとともに外部人材を積極的に活用していく。
- ◆不登校・登校渋りの生徒の増加防止が、とても難しく重要な課題である。
- ・SC, SSWや関係諸機関との連携、家庭との協働の他、タブレットの活用も取り入れながら対応していく。
- ・未然防止に向け、レジリエンスの育成、心理的安全性の高い学級・学年・学校づくりを推進する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	生徒の人権意識の涵養と規範意識の醸成を図る指導の推進	○	○	○	○	○
3	コミュニティ・スクールとしての、地域・保護者との協働による生徒の育成	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着と学習意欲向上		年度末到達度確認テスト正答率 60% 令和6年度 区調査通過率 60%		平均正答率1年53%、2年55% R6区調査通過率		・2学年とも達成基準を上回ったのは国語のみ。 ・学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
改善	学習コンテストや定期考査と連動した「朝学習」	全校生徒 国・数・英(社・理)	(通年)コンテスト前と定期考査前	【指導体制】全教員 【取組内容、ねらい・目的】 ・基礎学力の定着 【使用教材】自作プリント AIドリル	・学習状況のチェック ・学習コンテスト定期考査	・全員が10分以上学習する ・80%の生徒が合格ラインをクリア	・全員が10分以上の学習はした。 ・まとめテストでは80%以上の生徒が合格点をクリアできたことが多かった。	・朝読書だけでなく、朝学習への取り組みも定着した。 ・AIドリルの活用も進んだ。	○

改善・新規	読書活動推進 (朝読書と読書週間の設定)	全校生徒 (国語)	(通年) 朝学習の期間以外	【指導体制】全教員 【取組内容、ねらい・目的】 ・読解力を養う。 ・ビブリオバトルの実施 【使用教材】本	読書カード 生徒アンケート 教員アンケート	・年間5冊以上の本を読む生徒が80%以上 ・ビブリオバトルの実施への高評価70%以上	・5冊以上読破は30%、3冊以上は50%と目標に遠く及ばなかった。 ・ビブリオバトルは1,2年生のみの開催となったが、取組の高評価は80%を超えた。	・生徒の図書委員会を活用して読書活動を推進したい。 ・初開催だったが、決勝に残った生徒は堂々と発表しており、とても良かった。	△
継続	国数英強化月間の設定 (学習コンテスト)	全校生徒 国・数・英	各教科 年2回	【指導体制】全教員 【取組内容、ねらい・目的】 学習内容の復習・確認。 基礎学力の定着を図る。 【使用教材】各教科の自作プリント	学習コンテストの実施	各種学習コンテストで、80%の生徒が合格点をクリア	国語…1年75%、2年65%、3年83%。 数学…1年75%、2年68%、3年36%。 英語…1年58%、2年50%、3年68%。	学習コンテストへの取組は、ほとんどの生徒がよくやっていた。合格率80%を目標とした意義の共通認識が必要。	△
継続	放課後補習教室 (YST)	区調査や各種コンテスト等の合格ライン未到達の生徒	月、火、木、金 放課後25分程度	【指導体制】教科担任+学年 【取組内容、ねらい・目的】 個別または少人数指導で、つまづきをなくす支援。 【使用教材】 AIドリル、各教科プリント	狙いに応じたまとめテストの実施	95%以上の生徒が最終的に合格ラインをクリア	粘り強く放課後補習を実施し、国語・英語では、ほぼ全員がクリアしたが、数学では各学年7%前後がクリアできず。	各学年とも励ましながら工夫して実施した。数学を除き、ほぼ全員に達成感を味わわせることができた。	○
改善	家庭学習の習慣化	全校生徒	通年 (3年生後期を除く)	【指導体制】教員、保護者 【取組内容、ねらい・目的】 家庭学習ノート及びAIドリル活用(ワークの配信) 家庭学習の習慣化	・学年教員が随時点検 ・提出状況調査を定期的実施	・70%以上の生徒が家庭での学習時間1時間以上	1日平均1時間以上学習している生徒は47%に留まった。30分以上だと85%。	家庭学習の習慣が身に付いていないという回答は15%。家庭の協力も更に仰いでいく必要あり。	△
継続	サマースクール	・区調査の目標値未通過の生徒 ・1年生の数学合宿対象者	夏季休業中の6日間+α	【指導体制】全教員 【取組内容、ねらい・目的】 前年度および当該年度の前半期の学習内容でつまづきを解消する。 【使用教材】自作プリント サマワーク、勉強合宿テキスト	事前・事後にテスト実施	事後テストで全員の正答率が、10%以上上昇	正答の上昇率は 1年:数23%、英45% 2年:数23%、英58% 3年:数38%、英21% であり、全員が10%以上をクリアした。	サマースクール参加生徒は前向きな気持ちで補習に臨んでおり、成果をあげることができた。	◎

新規	自習教室の設置	希望者英数(国)	不可の日以外	【指導体制】SSS等の活用 【取組内容、ねらい・目的】自学自習の場の設定。 【使用教材】AIドリル他	参加者アンケート	参加生徒の満足度が80%以上	参加生徒の肯定的回答は100%。	通常の利用者は5名前後だが、考査前は50名以上の生徒が利用。	◎
----	---------	----------	--------	--	----------	----------------	------------------	--------------------------------	---

重点的な取組事項－2	生徒の人権意識の涵養と規範意識の醸成を図る指導の推進
-------------------	----------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自他を大切に作る心の育成 好ましい人間関係づくり	いじめ0 不登校生徒の減少(5%未満) 外部と繋がりをもたない生徒 0	いじめ認知件数は●件 継続的なものは0 不登校生徒の割合は6.7% 外部と繋がりをもたない生徒0は達成できず	・大きいいじめ案件はなかった。 ・不登校5%未満は達成できなかったが、昨年より1.8%減少。	○

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめ防止対策の推進	生徒アンケートで「自分自身や自分の周りで、いじめはなかった」の肯定的回答90%以上	・生徒会を中心とした、生徒の自主的ないじめ防止活動の支援 ・「特別の教科 道徳」や「総合的な学習の時間」を軸とした人権教育の推進	0(ゼロ)ではなかったが「自分自身や自分の周りで、いじめはなかった」の肯定的回答は94%。	・いじめに関する未然防止、早期発見・早期解決はできており、大きな案件となるものはなかった。人権教育を更に推進していく。	◎
基本的生活習慣・規範意識の醸成	生徒アンケートで「基本的生活習慣が身に付いた」「SNS等を含め、学校生活のルールを守って生活している」の肯定的回答が共に90%以上	・生徒理解を基盤とした生徒指導の実践 ・「みそあじ言」の徹底 ・セーフティ教室を軸とした情報モラル教育等の充実	「基本的生活習慣が身に付いた」の肯定的回答は87%で、目標に一步届かなかった。 「SNS等を含め、学校生活のルールを守って生活している」の肯定的回答は95%という好結果だった。	・伝統の「みそあじ言」は全校生徒に浸透し、皆が意識して落ち着いた学校生活を送っている。 ・規範意識も高い。	◎
特別支援教育の推進による心理的安全性の高い学級・学年づくり	生徒アンケートで「思いやりをもって友人と接した」と「自分の考えを安心して発言できた」の肯定的回答90%以上	・SWPBS(学校規模ポジティブ行動支援)の実践 ・WebQUの結果分析とグループエンカウンター等の実施 ・ユニバーサルデザインの視点をもった教育活動の推進	「思いやりをもって友人と接した」の肯定的回答は95%と好結果だった。 「学級では自分の考えを安心して発言できた」の肯定的回答84%と目標には届かなかった。	・SWPBSの意義を生徒、教員がともに理解し、生徒会が活動主体となった。 ・心理的安全性の高い学級・学校づくりを更に推進していく。	○

不登校生徒の減少に向けた取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒の減少（5%未満） ・引き籠もりの生徒0 	前記3項目の他 <ul style="list-style-type: none"> ・全学年でSC全員面接実施 ・教育相談週間の設定 ・特別支援教育の充実 ・各家庭やSC、SSW、関係諸機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校や別室登校等、不登校を合計すると6.7%だった。昨年よりは減少した。 ・外部と繋がりをもたない生徒は各学年に居り、0は達成できず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校準備室の設置は完全な不登校の防止策にはなっている。 ・電話、家庭訪問の他、タブレットも活用してつながりを維持している。 	△
-------------------	---	--	--	---	---

重点的な取組事項－3	コミュニティ・スクールとしての、地域・保護者との協働による生徒の育成
-------------------	------------------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
将来の夢を語れる生徒および自分に自信のもてる生徒の育成	生徒アンケートにおいて 該当項目の肯定的回答 80%	将来の夢や希望をもてた…75% 自分の活動・頑張りを他の人から認められていると感じる…83%	4年ぶりに職場体験を実施。保護者や教師以外の大人と関わる機会を増やしていきたい。	○

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
外部人材の活用を含めたキャリア教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・「将来の夢や希望をもてた」の肯定的回答 1年生…75% 2年生…80% 3年生…90% ・キャリア教育アンケートの全項目で全国値以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業調べや社会人の話を聞く会、職場体験等、外部人材や関係諸団体を活用したキャリア教育の推進 ・全教科において、基礎的・汎用的能力の育成をねらいとした授業の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・「将来の夢や希望をもてた」の割合 1年生:78% 2年生:68% 3年生:90% ・キャリア教育アンケートは12項目中、全国値以上は、8項目 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生のみ目標に届かず。キャリア教育を皿な推進していく。 ・キャリア教育アンケートでは、課題であったキャリアプランニング能力が伸びた。 	○
SDG's の認知拡大及びSDG'sに係る具体的な取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「SDG'sの目標を理解し、個人としても実践可能な活動をした」の肯定的回答80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間を軸に、発達段階に応じた、地域の人材や資源を活用した指導計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「SDG'sの目標を理解し、個人としても実践可能な活動をした」の肯定的回答89% 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の取組の他、生徒会・各専門委員会の活動でも目標を掲げたこともあり、認知が広がり成果をあげた。 	◎

関係諸団体との連携による講話や体験活動の充実	「学校の諸活動を通して、自分の成長を実感できた」の肯定的回答率のアップ (87%→90%)	・学校・学年行事や委員会活動、部活動等の実施 ・各種体験的活動や講習会・講演会等への学校運営協議会をはじめとした地域人材・地域資源の活用	・「学校の諸活動を通して、自分の成長を実感できた」の肯定的回答率90%	体験活動的な行事や外部人材を活用した取組を予定どおり実施でき、生徒はそれぞれの取組のたびに成長を実感できたようである。	○
関係諸団体と連携したボランティア活動の機会充実によるボランティアマインドの育成	ボランティア活動に ・参加経験のある生徒80% ・関心をもった生徒90%	・地元町会・自治会等の各種活動へ中学生の参加を依頼 ・福祉教育・福祉体験の充実 ・ボランティア活動への呼びかけの工夫	・ボランティア活動に実際に参加した生徒は36% ・ボランティア活動に関心をもっている生徒は84%	ボランティアという意識をもたずに地域清掃等の活動に参加した生徒もいた。	△

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題】※生徒アンケートでは、1年生82%、2年生87%の生徒が「基礎学力が身に付いたと感じている」と回答しているが、年度末到達度確認テスト正答率は、1、2年の順で国語66.0%と70.7%、数学47.2%と34.4%、英語44.6%と58.4%となっている。

(ただし、数学は問題が難しくなっており、全体の平均が例年より5～10ポイント低くなっている)

両学年の課題はほぼ共通しており、次のとおりである。また、各教科に共通している課題は語彙の少なさである。

- ・国語…漢字の読みはできているが書くことできていない。情報を読み取る力や自分の考えを文章表現することが弱い。
- ・数学…計算力が定着しておらずミスが多い。関数分野に苦手意識をもっている。
- ・英語…スペルや文法が不完全・不正確で、書く力・英語でのアウトプットが弱点。

【対策】学校全体として言語活動の充実を図る。

- ・国語…授業では意見交換の場を増やし振り返りを大切にする。コンテスト等を活用して書ける漢字を増やしていく。
- ・数学…授業では既習事項の確認を適宜取り入れ、スパイラル学習で定着を図る。補習等でAIドリルを活用し、計算力を高める。
- ・英語…授業展開では「英語で表現する力」の育成に重点を置く。補習では単語や熟語を書けるように、繰り返し小テスト等を実施する。

イ 全般について

◎今年度の成果

◇全般的に生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができ、「学校または学級は、居心地の良い場所になっている。」が88%、「学級の心理的安全性が高いと実感できた。」が84%の生徒が肯定的に答えている。また、行事や諸活動に生徒と教職員が信頼関係を築きながら取り組み、「成長を実感することができた。」「達成感を得られた。」と90%前後の生徒が答えている。ともに大きな成果だと言える。

◇伝統的な合い言葉「みそあじ言」の浸透や「PBSの全校展開」といった取組により、「人権意識の涵養と規範意識の醸成」という重点項目でも、成果が見られた。「思いやりをもって、友人と接するように心掛けている。」「SNS等を含め、学校のルールを守って生活している。」の肯定的回答は、ともに95%というとても良い結果だった。

◎次年度に向けた課題と解決の方向性

◆確かな学力の定着を目指した取組を行い、成果も出てきているが、各種学力調査の結果を見るとまだまだ改善が必要である。

- ・ 87%の生徒が「授業が充実し、学ぶ楽しさを感じた。」と肯定的に答えているものの、ICT機器を活用しながら「主体的・対話的で深い学び」を目指してさらに授業改善を進めていく必要があるため、学校全体で授業研究に力を入れる。
- ・ 各種コンテストや補充教室(YST)については「自身の学力向上に有効だった。」という回答が77%と昨年より若干上昇した。AIドリルの活用を含め、実施方法について更に検討し、個に応じた支援を推進していく。
- ・ 家庭学習については、量的にも質的にも課題が残った。保護者の協力を得ながら、充実を図っていく。

◆不登校生徒の割合は昨年より若干減ったが、30名を超えており引き続き重要な課題となっている。

- ・ SC、SSWや関係諸機関との連携、家庭との協働の他、タブレットの活用も取り入れながら対応していく。
- ・ 未然防止に向け、レジリエンスの育成、心理的安全性の高い学級・学年・学校づくりを推進する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度も学校運営協議会でのご意見や保護者アンケートの結果から、本校の教育方針や現状の教育活動について、概ね肯定的に捉えていただいていると感じます。特に、生徒と共に区内でも先駆的に継続して取り組んでいる校則の見直しは生徒の学校満足度の高さにつながっており、今後も保護者・地域の皆様のご意見・要望も踏まえながら、実施していきたいと考えています。

また、生徒たちはもとより、保護者・地域の方や教職員にとっても「居心地の良い学校」「心理的安全性の高い学校」にしたいと切に願っています。

そして、生徒の自己肯定感・自己有用感を育み、生徒に将来の夢をもたせることが中学校の使命だと考えています。その達成に向けて、学校・家庭・地域が三位一体となった教育活動を推進したいと考えておりますので、今後とも本校の教育方針をご理解のうえ、ご支援・ご協力をお願いいたします。

(3) その他(学校教育活動全般について)

教育目標に「自ら学ぶ生徒、豊かな心をもつ生徒、たくましく生きる生徒」とあるように、知・徳・体のバランスのとれた教育活動の実践を目指しています。そして、3年間の中学校生活の中で、生徒たちに「将来の夢や希望」・「自信と誇り」をもたせたいと強く願い、カリキュラムを編成しています。コロナ禍で不足した体験活動やボランティア活動にも力を入れながら、コミュニティ・スクールの利点を活かして、これまで以上の教育活動を展開し、保護者・地域の皆様と共に子どもたちの成長を支援していきたいと考えています。